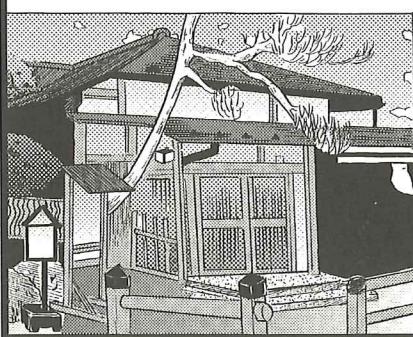


日本鍍金協会 設立物語

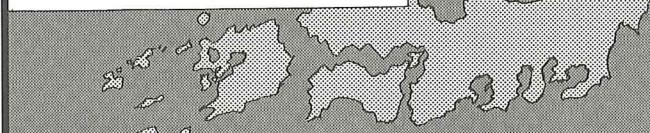
作 福田 健太朗

昭和23年11月15日
小石川後楽園 涵徳亭――



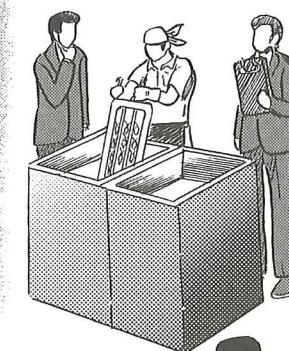
十日会は高浜二郎氏の強い
呼びかけにより、志を同じくする者
十名が会合したのが始まりである。

その結成から十数年――
各地区において様々な
研究団体が誕生し――



独自の活動によって
めっき業界の発展のため
不断の努力が続けられていた。

十日会は
大阪の鍍友会、
名古屋の名鍍会
との間で工場見学や
技術交流を行い、
定期的に交歓会を
催していた。



そんな中
昭和35年
8月4日――



十日会はアメリカの

金属表面処理誌

『プロダクツフィニッシング』

の主筆



エズラ・A・ブラウント氏
を招聘した。

東京、大阪、名古屋で

講演会を開催し、

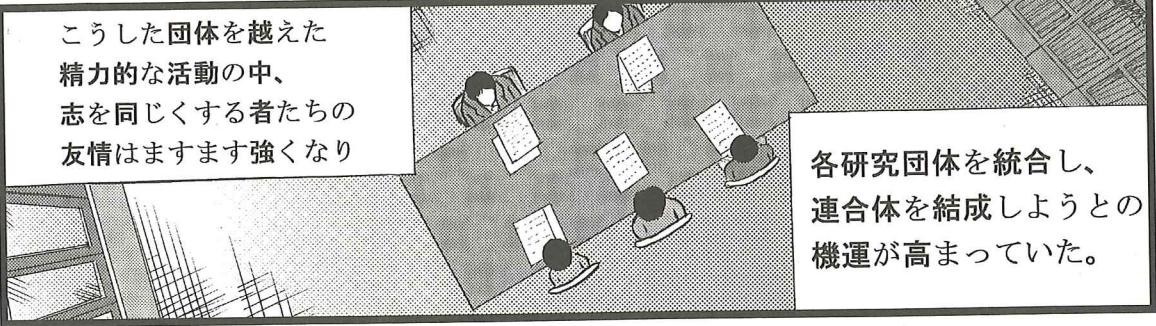


光沢ニッケルめっき
を主とする
欧米における
新しいめっき技術を
日本にもたらした。



彼の日本での活動は
日本のめっき技術の向上や
新技術の導入に重要な役割を
果たし、
大きな功績を残した。

こうした団体を越えた
精力的な活動の中、
志を同じくする者たちの
友情はますます強くなり



各研究団体を統合し、
連合体を結成しようとの
機運が高まっていた。

我々が結束すれば
全国規模で活動する
団体を創ることが
できるー！

八幡 健氏



名古屋の名鑑会にも
加わってもらいましょう！

彼らなら
きっと協力して
くれるはずですー！

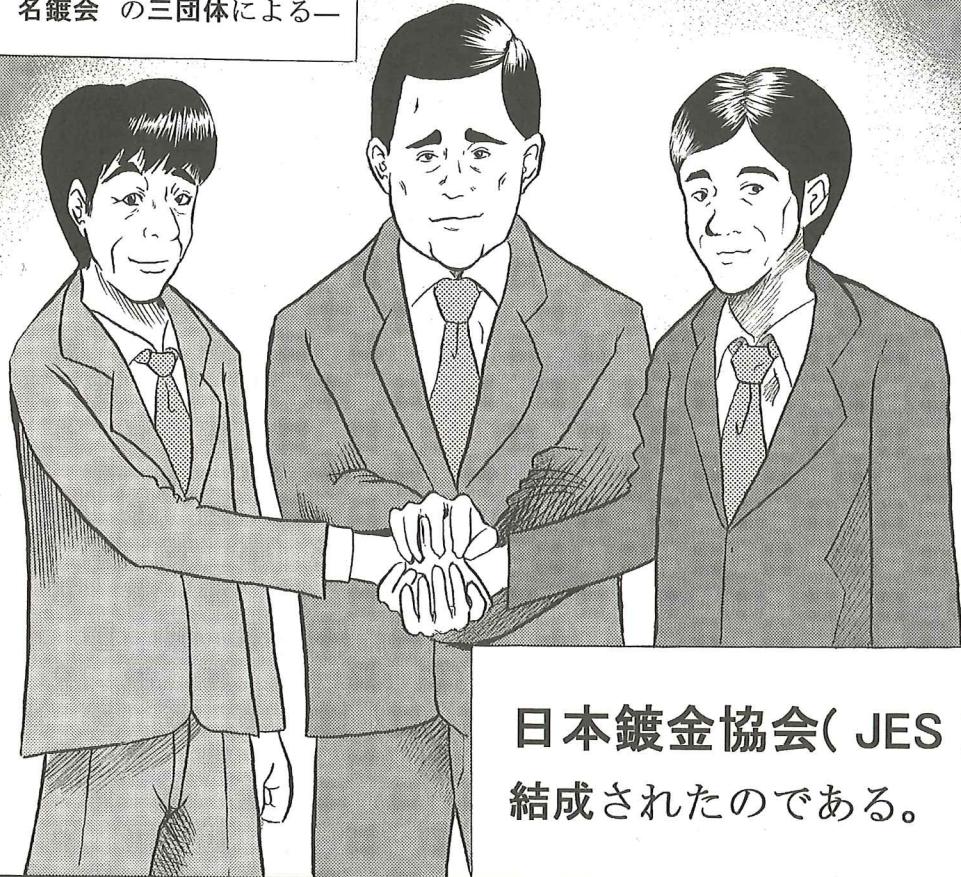
十日会の八幡健氏
※鑑友会の大堀弥六氏、緒方正明氏
が推進力となりー



連合体結成
の努力が続けられた。

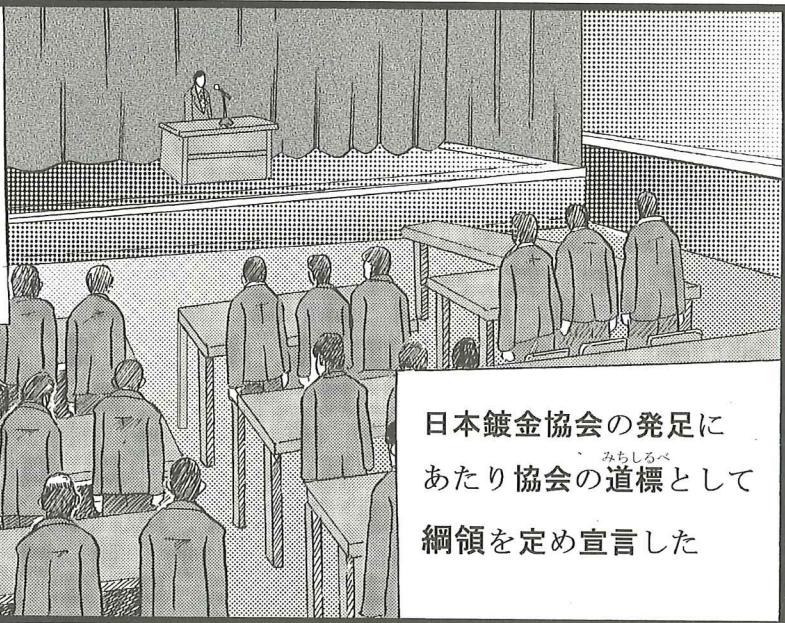
※後に鑑友会と鑑生会が一本化され青研会となる。

そしていよいよ機は熟す。
東京 十日会
大阪 鎏友会
名古屋 名鎔会 の三団体による—



日本鎔金協会(JES)が
結成されたのである。

昭和36年6月25日
名古屋ニューガーデンホテルで
行われた結成大会——
初代会長には
十日会小嶋政夫氏が就任した。



日本鎔金協会の発足に
あたり協会の道標として
綱領を定め宣言した

私達は良識ある
日本鍍金協会設立大会
日本人の誇りを
以って行動したい

私達は鍍金工業を
通じて日本産業の
興隆に寄与したい

私達は開拓者の
精神を以って業界の
推進力となりたい

三団体の団結により
活動を開始した
日本鍍金協会——

全鍍連組織を縦糸に例えれば
日本鍍金協会は横糸の組織と言える。
日本のめっき業界の組織強化に
貢献している。

毎年、挙行される
年次大会では——



各会の会員家族が
一堂に会し、親睦を深めた。
この試みは業界に先駆けた
ものとして瞠目された。

日本鍍金協会秋季大会

各会の活発な
活動のもと毎年
年次大会、秋季大会が
開催されている。



2007年6月 合同役員会議
めっき見積もり大会
非鉄金属高騰のおり
めっき単価について徹底討論



日本鍍金協会の
会員から今日のめっき業界を
背負って立つ多くのリーダー
が誕生している。



現在結成時に活躍した会員の
二世、三世が日本鍍金協会創世記
の精神を受け継ぎ、同協会の
会員、指導者として
活躍している。